

育ちをつなぐ～幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進～

乳幼児期の教育・保育において、子ども一人一人に育まれてきた資質・能力を小学校教育につなぎ、子どもが安心して伸び伸びと自己発揮しながら学びに向かうことができるようにすることが求められています。乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園と小学校で子ども一人一人の育ちを共有し、スタートカリキュラムの作成に生かし、各教科等で学びに向かう姿勢につなげていくことが大切です。

接続期における子ども一人一人の育ちを捉え、つなぐためのツール

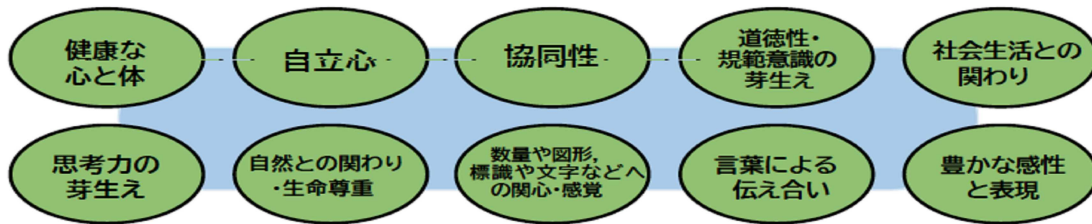
幼小連携の取組で、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力や、「10の姿」を手掛かりに子どもの育ちの方向性を共有し、双方の指導に生かすことが大切です。

★乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力（「育みたい資質・能力」）

- ①知識及び技能の基礎
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする
- ②思考力、判断力、表現力等の基礎
気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
- ③学びに向かう力、人間性等
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（「10の姿」）

乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力（①～③）が育まれている園児の具体的な姿。特に5歳児後半に見られるようになる。



資質・能力をつなぎ、生かす取組のポイント

園では

□乳幼児期にふさわしい経験を積み重ねる指導の充実

- ・各年齢の発達連続性と必要な経験の理解
- ・発達に必要な体験が得られる意図的な保育の展開と評価を基にした指導計画の改善
- ・「育みたい資質・能力」や「10の姿」を活用した保育改善のための園内研修



園と小学校の連携では

□接続期の学びの連続性を支える教職員の連携

- ・子どもの実態を踏まえた育てたい子どもの姿や指導の重点の共有
- ・保育・授業研究会への参加による教育内容の相互理解
- ・「育みたい資質・能力」や「10の姿」を視点とした子どもの育ちの共有



□双方に互恵性のある「児童と幼児の交流活動」

- ・幼小それぞれがねらいをもち、子どもの育ちを生かした活動の実施 p 4

小学校では

□子ども一人一人が主体的に自己を発揮し学びに向かう教育活動の展開

- ・幼児期において自発的な活動としての学びを通して育まれてきた資質・能力を生かしたスタートカリキュラムの作成と実施 p 4
- ・幼児期の教育において育成された資質・能力を各教科等における学習に生かし、資質・能力を一層伸ばすために、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を図る。

幼保関連事業

月 日	事業名	対象	会場
7月27日 (水)	就学前・小学校等 南地区合同研修会	美郷町、湯沢市、羽後町、東成瀬村の 小学校教員、就学前教育施設教職員等	羽後町文化交流施設 美里音（みりおん）

資質・能力をつなぎ、生かす取組の実際

小学校教育への円滑な接続に向けた幼小連携年間計画（例）

（□体制づくり ○子どもの交流 ◇相互参観 ◎スタートカリキュラムの作成・実施）



月	連携の内容	育ちをつなぐ連携するための留意点
4 ・ 5	□連携計画の作成 ・連携組織の確認 ・接続期に育てたい子どもの姿の協議 ・年間計画の作成	・接続期に育てたい子どもの姿を年間計画に位置付け、子どもの交流活動や保育・授業参観において子どもの育ちを捉える視点として年間を通して活用する。 ・双方の教職員で、安心・自己発揮、学びに向かう姿勢、接続期に育てたい子どもの姿等の視点で協議し、指導の改善に生かす。
	◎◇スタートカリキュラム実施期間における授業参観、研究協議会	
6 5 12	◇保育・授業参観、研究協議会への参加 ○小学校や園での交流活動	・接続期に育てたい子どもの姿を視点に保育・授業での子どもの姿を見取り、指導の改善に生かす。 ①参照
1 5 3	○一日体験入学 ◎スタートカリキュラム作成のための子どもの育ちの共有	・就学への不安が解消され、小学校生活への期待感が膨らむよう活動を工夫する。 ②参照
	□連携体制や内容についての評価・改善	

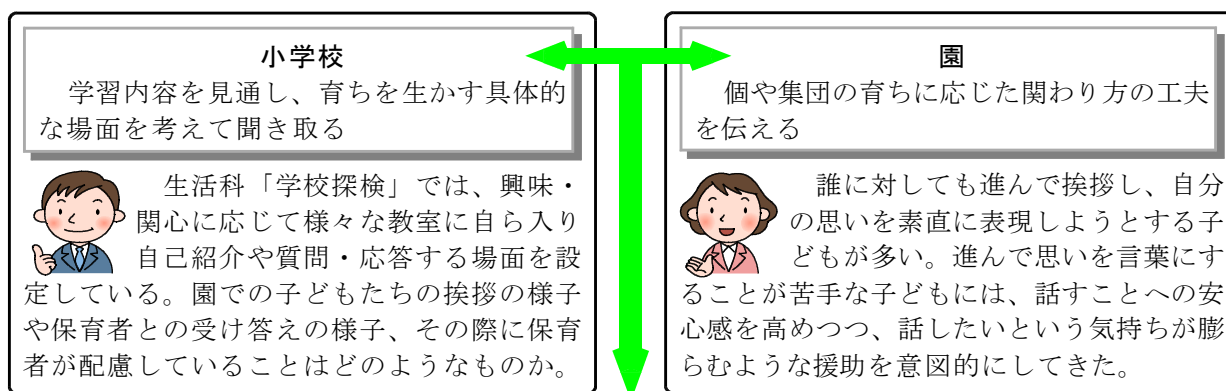
① 小学校や園での交流活動（第1学年生活科 秋まつり）の計画作成・実施のポイント

小学校と園の双方のねらいを教職員間で共有し、園児、児童それぞれの力を引き出す活動の設定や、子どもの育ちを生かすための教職員の意図的な関わりが大切です。



	小学校	園
ね ら い	園児が楽しめるように、園児への伝え方を考えたり、遊び方を工夫したりすることができる。	思ったことや考えたことを自分の言葉で伝えながら、自分から進んで様々な人と関わって遊ぼうとする。
留 意 点	園児に遊び方を分かりやすく伝えようとしていたり、園児の様子を見ながら遊び方を変化させたりしている姿を認め、更に工夫しようとする意欲を高める。	思いを伝えることができた喜びを受け止め、更に深く関わろうとする意欲が高まるような言葉掛けをする。自ら伝えることが難しい園児には寄り添い、共に活動する中で自ら伝えようとするきっかけをつくる。

② スタートカリキュラム作成のための子どもの育ちの共有（例）



資質・能力をつなぎ、生かしたスタートカリキュラムを作成する（備考欄等に記載）

進んで探検することに自信がもてない子どもには、対話をしながら一緒に探検する中で安心感をもたせ、自分から関わっていこうとする気持ちを育てていく。そして、子どもの言動や表情等から内面を捉えたり、教師の期待感を伝えたりしながら、子どもが自ら関わろうとする力を後押しする。